令和２年度横須賀市地方公営企業

決　算　審　査　意　見

第１　審査の対象

令和２年度横須賀市水道事業決算
令和２年度横須賀市公共下水道事業決算
令和２年度横須賀市病院事業決算

第２　審査の期間

令和３年６月１日から同年８月11日まで

第３　審査の手続

横須賀市地方公営企業決算審査については、横須賀市監査基準に準拠し、審査に付された決算報告書、事業報告書等について、関係法令に準拠して作成され、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、また、予算執行が適正に行われているかを検証するため、総勘定元帳その他の会計帳票及び関係証書類との照合その他必要と認めた審査手続を実施した。

なお、審査に当たっては、事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたかを検討するため、事業の経営分析を行った。

第４　審査の結果

審査に付された決算報告書、事業報告書等は、関係法令に準拠して作成されており、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。また、予算執行についても適正と認められた。

事業の運営面についてみると、各公営企業ともに企業の経済性に留意し、本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されていると認められた。

主要な経営指標等の推移

第１　３企業会計合計

３企業会計合計の最近５事業年度に係る主要な経営指標等の推移

（単位：千円）

区　　分		28年度	29年度	30年度	元年度	２年度
経営成績	営業収益	19,452,623	19,338,399	19,180,597	18,951,101	18,443,558
	営業損失	3,132,330	3,573,749	3,609,028	4,189,930	7,665,874
	経常利益	3,164,514	2,334,712	2,363,585	1,933,157	2,100,470
	当年度純利益	3,213,591	2,318,830	2,493,626	1,951,767	2,026,210
	繰入金を除いた当年度純損失	1,828,338	1,503,262	977,790	1,557,305	861,782
財政状態	資産合計	363,074,747	358,355,099	357,275,942	353,157,338	353,670,281
	資本金	55,397,899	57,243,732	80,389,020	84,220,507	87,145,536
	資本合計	103,685,176	106,770,826	109,685,030	111,942,129	114,074,733
	自己資本構成比率	67.5%	68.2%	68.6%	69.4%	41.0%
	１年超滞納未収金	41,549	51,385	39,071	35,398	29,816
	不納欠損額	13,639	8,581	12,288	6,449	6,392
	企業債年度末残高	112,608,898	108,620,364	105,888,418	102,048,711	99,733,756
	企業債利息	2,051,686	1,758,891	1,484,129	1,228,916	1,000,688
キャッシュ・フロー	業務活動によるキャッシュ・フロー	10,165,311	9,233,515	8,905,541	8,620,872	8,954,130
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,035,921	△7,422,347	△5,345,734	△10,120,722	△8,790,620
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,120,219	△2,297,035	△1,285,365	△2,444,773	△1,007,934
	資金期末残高	15,489,730	15,003,863	17,278,305	13,333,681	12,489,257
その他	建設改良費	7,988,674	8,540,452	10,391,766	10,694,424	12,300,094
	一般会計繰入金	5,920,186	5,653,798	5,055,208	5,042,490	4,361,328
	職員数	308人	311人	308人	312人	318人

（注）１　営業収益には、消費税等は含まれていない。
２　繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
３　一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
４　自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

公営企業３会計の合計について、営業収益は、すべての事業で減収となったため、前年度に比べて５億 754 万円（2.7％）減少し、184 億 4,355 万円となった。

営業損失は、水道事業及び公共下水道事業が増益となったが、病院事業で減益となったため、前年度に比べて 34 億 7,594 万円（83.0％）増加し、76 億 6,587 万円となった。

経常利益は、病院事業が減益となったが、水道事業及び公共下水道事業で増益となったため、前年度に比べて１億 6,731 万円（8.7％）増加し、21 億 47 万円となった。

当年度純利益は、病院事業が減益となったが、水道事業及び公共下水道事業で増益となったため、前年度に比べて7,444万円（3.8％）増加し、20億2,621万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失に転じ８億6,178万円となり、純損失額は前年度に比べて６億9,552万円（44.7％）減少した。

(2) 財政状態

資産合計は、公共下水道事業が減少したが、水道事業及び病院事業で増加したため、前年度に比べて５億 1,294 万円（0.1％）増加し、3,536 億 7,028 万円となった。

資本合計は、病院事業が減少したが、水道事業及び公共下水道事業で増加したため、前年度に比べて 21 億 3,260 万円（1.9％）増加し、1,140 億 7,473 万円となった。

１年超滞納未収金は、水道事業が増加したが、公共下水道事業及び病院事業で減少したため、前年度に比べて 558 万円（15.8％）減少し、2,981 万円となった。

企業債年度末残高は、すべての事業において減少したため、前年度に比べて 23 億 1,495 万円（2.3％）減少し、997 億 3,375 万円となった。

(3) キャッシュ･フローの状況

当年度のキャッシュ･フローは、業務活動により 89 億 5,413 万円増加し、投資活動により 87 億 9,062 万円減少し、財務活動により 10 億 793 万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて８億 4,442 万円（6.3％）減少し、124 億 8,925 万円となった。

(4) その他

建設改良費は、水道事業が減少したが、公共下水道事業及び病院事業で増加したため、前年度に比べて 16 億 567 万円（15.0％）増加し、123 億９万円となった。

一般会計繰入金は、すべての事業において減少したため、前年度に比べて６億 8,116 万円（13.5％）減少し、43 億 6,132 万円となった。

職員数は、水道事業が減少したが、公共下水道事業及び病院事業で増加したため、前年度に比べて６人増加し、318 人となった。

第２　水道事業

水道事業の最近５事業年度に係る主要な経営指標等の推移

（単位：千円）

区　分		28年度	29年度	30年度	元年度	２年度
経営成績	営業収益	9,291,772	9,310,991	9,308,338	9,131,786	9,030,767
	営業利益	831,013	623,630	830,256	354,277	585,427
	経常利益	1,591,217	1,365,493	1,609,207	1,153,915	1,378,812
	当年度純利益	1,595,573	1,352,080	1,742,765	1,142,246	1,349,393
	繰入金を除いた当年度純利益	1,579,504	1,339,308	1,731,175	1,133,214	1,339,937
財政状態	資産合計	96,572,871	97,726,303	98,832,833	98,884,941	99,442,647
	資本金	31,181,677	31,235,677	52,351,152	54,829,502	56,829,502
	資本合計	57,158,584	58,571,908	60,349,674	61,510,920	62,860,313
	自己資本構成比率	77.3％	77.3％	77.8％	78.4％	78.8％
	１年超滞納未収金	12,657	15,330	9,936	10,048	11,034
	不納欠損額	3,924	4,382	5,538	3,249	2,075
	企業債年度末残高	19,199,603	19,064,874	19,009,124	18,482,550	18,034,649
	企業債利息	356,728	296,267	244,377	197,419	153,617
キャッシュ・フロー	業務活動によるキャッシュ・フロー	3,858,617	4,148,545	4,198,358	3,813,362	4,169,383
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,519,617	△3,914,612	△3,814,569	△6,638,508	△4,585,959
	財務活動によるキャッシュ・フロー	150,247	△80,728	△20,749	△507,574	△447,900
	資金期末残高	9,236,828	9,390,033	9,753,072	6,420,352	5,555,875
その他	建設改良費	3,738,566	4,264,657	4,335,093	4,943,220	4,871,623
	一般会計繰入金	88,069	66,772	46,590	28,032	13,224
	職員数	182人	184人	180人	177人	174人

（注）１　営業収益には、消費税等は含まれていない。

２　繰入金を除いた当年度純利益は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。

３　一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。

４　自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、給水収益の減などにより、前年度に比べて１億101万円（1.1%）減少し、90億3,076万円となった。

営業利益は、営業収益の減少が、資産減耗費の減などによる営業費用の減少を下回ったため、前年度に比べて２億3,115万円（65.2%）増加し、５億8,542万円となった。

経常利益は、営業外収益の減少が、営業外費用の減少を上回ったものの、営業利益が増加したため、前年度に比べて２億2,489万円（19.5%）増加し、13億7,881万円となった。

当年度純利益は、特別利益が減少し、特別損失が増加したものの、経常利益が増加したため、前年度に比べて２億714万円（18.1%）増加し、13億4,939万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純利益13億3,993万円となり、前年度に比べて２億672万円（18.2%）増加した。

(2) 財政状態

資産合計は、主に構築物等の有形固定資産の増による固定資産の増加により、前年度に比べて５億5,770万円（0.6%）増加し、994億4,264万円となった。

資本合計は、主に資本金が組入資本金の組み入れによって増加したことにより、前年度に比べて13億4,939万円（2.2%）増加し、628億6,031万円となった。

１年超滞納未収金は、前年度に比べて98万円（9.8%）増加し、1,103万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて４億4,790万円（2.4%）減少し、180億3,464万円となった。

(3) キャッシュ･フローの状況

当年度のキャッシュ･フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により41億6,938万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により45億8,595万円減少し、企業債償還等の財務活動により４億4,790万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて８億6,447万円（13.5%）減少し、55億5,587万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に経年化した配水管の耐震性能を備えた管への更新工事などの配水施設整備事業に充てられ、前年度に比べて7,159万円（1.4%）減少し、48億7,162万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて1,480万円（52.8%）減少し、1,322万円となった。

職員数は、前年度に比べて３人減少し、174人となった。

第３　公共下水道事業

公共下水道事業の最近５事業年度に係る主要な経営指標等の推移

（単位：千円）

区　分		28年度	29年度	30年度	元年度	２年度
経営成績	営業収益	9,478,155	9,324,704	9,177,202	9,124,877	8,978,076
	営業損失	3,387,774	3,588,523	3,833,596	3,883,076	3,723,911
	経常利益	1,591,325	1,073,420	813,429	903,219	1,016,566
	当年度純利益	1,650,814	1,079,137	820,029	940,781	979,009
	繰入金を除いた当年度純損失	2,340,046	1,716,184	1,626,797	1,547,259	1,276,527
財政状態	資産合計	250,040,637	244,468,704	242,485,052	238,377,787	236,141,607
	資本金	12,630,265	14,000,097	15,650,911	16,730,048	17,550,078
	資本合計	37,015,105	38,094,262	38,920,868	39,873,982	40,854,385
	自己資本構成比率	64.0%	64.6%	64.8%	65.5%	65.9%
	１年超滞納未収金	20,632	29,361	23,408	19,888	14,475
	不納欠損額	9,398	4,014	6,200	3,103	3,856
	企業債年度末残高	87,388,420	84,355,352	82,162,009	79,117,622	77,611,193
	企業債利息	1,631,269	1,412,706	1,198,145	994,246	812,474
キャッシュ・フロー	業務活動によるキャッシュ・フロー	5,425,286	4,304,700	3,892,548	4,043,804	4,108,471
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,148,080	△3,143,617	△1,160,893	△2,890,329	△3,547,885
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,994,393	△2,099,285	△1,169,780	△1,943,279	△313,847
	資金期末残高	3,343,548	2,405,345	3,967,219	3,177,414	3,424,152
その他	建設改良費	3,792,504	3,830,344	5,610,144	5,039,538	6,607,396
	一般会計繰入金	4,067,117	3,867,469	3,616,618	3,728,458	3,620,104
	職員数	120人	121人	121人	127人	131人

（注）１　営業収益には、消費税等は含まれていない。
２　繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純利益から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
３　一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
４　自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本

【当年度の概要】

(1) 経営成績

営業収益は、他会計補助金の皆減などにより、前年度に比べて１億 4,680 万円（1.6％）減少し、89 億 7,807 万円となった。

営業損失は、営業収益の減少が、総係費の減などによる営業費用の減少を下回ったため、前年度に比べて１億 5,916 万円（4.1％）減少し、37 億 2,391 万円となった。

経常利益は、営業外収益の減少が、営業外費用の減少を上回ったものの、営業損失が減少したため、前年度に比べて１億 1,334 万円（12.5％）増加し、10 億 1,656 万円となった。

当年度純利益は、特別利益の増加が、特別損失の増加を下回ったものの、経常利益が増加したため、前年度に比べて 3,822 万円（4.1％）増加し、９億 7,900 万円となった。

当年度純利益から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失に転じ12億7,652万円となるが、純損失額は前年度に比べて２億7,073万円（17.5％）減少した。

(2) 財政状態

資産合計は、主に構築物等の減価償却等に伴う固定資産の減少により、前年度に比べて 22 億 3,617 万円（0.9％）減少し、2,361 億 4,160 万円となった。

資本合計は、主に資本金が組入資本金の組み入れによって増加したことにより、前年度に比べて９億 8,040 万円（2.5％）増加し、408 億 5,438 万円となった。

１年超滞納未収金は、前年度に比べて 541 万円（27.2％）減少し、1,447 万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて 15 億 642 万円（1.9％）減少し、776 億 1,119 万円となった。

(3) キャッシュ･フローの状況

当年度のキャッシュ･フローは、当年度純利益と減価償却費を主因として業務活動により 41 億 847 万円増加し、有形固定資産の取得等による投資活動により 35 億 4,788 万円減少し、企業債償還等の財務活動により３億 1,384 万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は前年度に比べて２億 4,673 万円（7.8％）増加し、34 億 2,415 万円となった。

(4) その他

建設改良費は、主に下町浄化センター汚泥焼却炉設備更新工事などの終末処理場建設事業に充てられ、前年度に比べて 15 億 6,785 万円（31.1％）増加し、66 億 739 万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて１億 835 万円（2.9％）減少し、36 億 2,010 万円となった。

職員数は、前年度に比べて４人増加し、131 人となった。

第４　病院事業

病院事業の最近５事業年度に係る主要な経営指標等の推移

（単位：千円）

区　　分		28年度	29年度	30年度	元年度	２年度
経営成績	医業収益	682,696	702,702	695,056	694,438	434,714
	医業損失	575,569	608,855	605,688	661,132	4,527,391
	経常損失	18,028	104,202	59,050	123,977	294,909
	当年度純損失	32,796	112,386	69,168	131,260	302,192
	繰入金を除いた当年度純損失	1,067,796	1,126,386	1,082,168	1,143,260	925,192
財政状態	資産合計	16,461,238	16,160,091	15,958,056	15,894,609	18,086,027
	資本金	11,585,956	12,007,956	12,386,956	12,660,956	12,765,956
	資本合計	9,511,486	10,104,655	10,414,487	10,557,226	10,360,034
	自己資本構成比率	62.8%	67.2%	69.8%	70.6%	61.5%
	１年超滞納未収金	8,259	6,693	5,727	5,461	4,306
	不納欠損額	316	185	549	96	459
	企業債年度末残高	6,020,874	5,200,136	4,717,284	4,448,538	4,087,913
	企業債利息	63,687	49,917	41,606	37,250	34,596
キャッシュ・フロー	業務活動によるキャッシュ・フロー	881,407	780,269	814,635	763,704	676,275
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△368,222	△364,117	△370,270	△591,884	△656,774
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△276,073	△117,021	△94,835	6,080	△246,185
	資金期末残高	2,909,353	3,208,483	3,558,013	3,735,914	3,509,229
その他	建設改良費	457,603	445,450	446,528	711,664	821,073
	一般会計繰入金	1,765,000	1,719,556	1,392,000	1,286,000	728,000
	職員数	6人	6人	7人	8人	13人

（注）１　医業収益には、消費税等は含まれていない。
２　繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
３　一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
４　自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本
５　職員数は市職員数であり、指定管理者の職員は含まれていない。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

市民病院及びうわまち病院（以下「両病院」という。）は、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする指定管理者制度（利用料金制）を導入している。

医業収益は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて２億5,972万円（37.4％）減少し、４億3,471万円となった。

医業損失は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて38億6,625万円（584.8％）増加し、45億2,739万円となった。

経常損失は、市民病院が経常損失３億2,118万円を計上し、うわまち病院が経常利益2,627万円を計上した。事業合計では前年度に比べて１億7,093万円（137.9％）増加し、２億9,490万円となった。

当年度純損失は、市民病院が当年度純損失３億2,846万円を計上し、うわまち病院が当年度純利益2,627万円を計上した。事業合計では前年度に比べて１億7,093万円（130.2％）増加し、３億219万円となった。

当年度純損失から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失９億2,519万円となり、前年度に比べて２億1,806万円（19.1％）減少した。

(2) 財政状態

資産合計は、両病院とも増加した。事業合計では前年度に比べて21億9,141万円（13.8％）増加し、180億8,602万円となった。

資本合計は、市民病院では減少し、うわまち病院では増加した。事業合計では前年度に比べて１億9,719万円（1.9％）減少し、103億6,003万円となった。

１年超滞納未収金は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて115万円（21.1％）減少し、430万円となった。

企業債年度末残高は、両病院とも減少した。事業合計では前年度に比べて３億6,062万円（8.1％）減少し、40億8,791万円となった。

(3) キャッシュ･フローの状況

当年度のキャッシュ･フローは、業務活動により６億7,627万円増加し、投資活動により６億5,677万円減少し、財務活動により２億4,618万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて２億2,668万円（6.1％）減少し、35億922万円となった。

(4) その他

建設改良費は、前年度に比べて１億940万円（15.4％）増加し、８億2,107万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて５億5,800万円（43.4％）減少し、７億2,800万円となった。

職員数は、前年度に比べて５人増加し、13人となった。

1　市民病院

市民病院の最近５事業年度に係る主要な経営指標等の推移

（単位：千円）

区　　分		28年度	29年度	30年度	元年度	２年度
経営成績	医業収益	402,998	422,519	418,714	420,482	417,091
	医業損失	319,698	336,575	331,434	398,617	2,197,158
	経常損失	65,259	114,496	89,949	159,201	321,185
	当年度純損失	80,027	122,681	100,066	166,485	328,468
	繰入金を除いた当年度純損失	722,027	754,681	731,066	796,485	951,468
財政状態	資産合計	6,660,201	6,578,517	6,543,996	6,562,302	7,317,456
	資本金	9,392,356	9,605,356	9,800,356	9,970,356	9,970,356
	資本合計	4,123,310	4,497,185	4,592,119	4,595,634	4,267,165
	自己資本構成比率	63.8%	70.1%	72.4%	72.1%	60.7%
	１年超滞納未収金	6,721	5,340	4,595	4,304	3,483
	不納欠損額	244	131	405	46	409
	企業債年度末残高	2,364,993	1,915,901	1,761,498	1,692,681	1,533,122
	企業債利息	31,298	26,067	21,918	19,920	18,273
キャッシュ・フロー	業務活動によるキャッシュ・フロー	522,744	459,217	478,515	420,617	415,668
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△199,961	△225,667	△223,643	△237,080	△292,372
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△336,370	45,623	49,613	102,010	△150,120
	資金期末残高	16,339	295,513	599,998	885,546	858,722
その他	建設改良費	262,760	295,924	288,171	359,843	321,159
	一般会計繰入金	1,137,000	1,128,556	826,000	800,000	623,000
	職員数	3人	3人	3人	3人	3人

（注）１　医業収益には、消費税等は含まれていない。

２　繰入金を除いた当年度純損失は、当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。

３　一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。

４　自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本

【当年度の概要】
(1) 経営成績

医業収益は、その他医業収益の減により、前年度に比べて339万円（0.8%）減少し、４億1,709万円となった。

医業損失は、医業費用が新型コロナウイルス感染症関係補助金の指定管理者への支出の皆増などにより増加したため、前年度に比べて17億9,854万円（451.2%）増加し、21億9,715万円となった。

経常損失は、医業外収益が新型コロナウイルス感染症関係補助金の皆増などにより増加し、医業外費用が減少したものの、医業損失が増加したため、前年度に比べて１億6,198万円（101.7%）増加し、３億2,118万円となった。

当年度純損失は、経常損失が増加したため、前年度に比べて１億6,198万円（97.3%）増加し、３億2,846万円となった。

当年度純損失から一般会計繰入金を除いてみると当年度純損失９億5,146万円となり、前年度に比べて１億5,498万円（19.5%）増加した。

(2) 財政状態

資産合計は、建物や器具及び備品などの減価償却等に伴い固定資産が減少したものの、未収金の増などにより流動資産が増加したことにより、前年度に比べて７億5,515万円（11.5%）増加し、73億1,745万円となった。

資本合計は、前年度に比べて３億2,846万円（7.1%）減少し、42億6,716万円となった。

１年超滞納未収金は、前年度に比べて82万円（19.1%）減少し、348万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の償還額が借入額を上回り、前年度に比べて１億5,955万円（9.4%）減少し、15億3,312万円となった。

(3) キャッシュ･フローの状況

当年度のキャッシュ･フローは、業務活動により４億1,566万円増加し、有形固定資産の取得による支出等の投資活動により２億9,237万円減少し、建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出等の財務活動により１億5,012万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて2,682万円（3.0%）減少し、８億5,872万円となった。

(4) その他

建設改良費は、市民病院除害施設流量調整槽設備その他改修工事等の建物改修やＸ線ＴＶ装置等の医療機器購入などに充てられ、前年度に比べて3,868万円（10.8%）減少し、３億2,115万円となった。

一般会計繰入金は、前年度に比べて１億7,700万円（22.1%）減少し、６億2,300万円となった。

職員数は、前年度と同数の３人であった。

２　うわまち病院

うわまち病院の最近５事業年度に係る主要な経営指標等の推移

（単位：千円）

区　　分		28年度	29年度	30年度	元年度	２年度
経営成績	医業収益	279,697	280,182	276,342	273,956	17,623
	医業損失	255,871	272,280	274,253	262,514	2,330,232
	経常利益	47,230	10,294	30,898	35,224	26,275
	当年度純利益	47,230	10,294	30,898	35,224	26,275
	繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失（△）	△345,769	△371,705	△351,101	△346,775	26,275
財政状態	資産合計	9,801,037	9,581,574	9,414,060	9,332,307	10,768,570
	資本金	2,193,600	2,402,600	2,586,600	2,690,600	2,795,600
	資本合計	5,388,175	5,607,469	5,822,368	5,961,592	6,092,868
	自己資本構成比率	62.2%	65.2%	68.0%	69.6%	62.1%
	１年超滞納未収金	1,537	1,353	1,131	1,156	822
	不納欠損額	71	53	144	49	50
	企業債年度末残高	3,655,880	3,284,234	2,955,786	2,755,856	2,554,791
	企業債利息	32,389	23,849	19,688	17,330	16,322
キャッシュ・フロー	業務活動によるキャッシュ・フロー	358,662	321,051	336,119	343,087	260,606
	投資活動によるキャッシュ・フロー	81,738	△138,450	△146,627	△354,803	△364,402
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△189,702	△162,645	△144,448	△95,929	△96,065
	資金期末残高	2,893,014	2,912,970	2,958,014	2,850,368	2,650,506
その他	建設改良費	194,843	149,526	158,357	351,821	499,914
	一般会計繰入金	628,000	591,000	566,000	486,000	105,000
	職員数	3人	3人	4人	5人	10人

（注）１　医業収益には、消費税等は含まれていない。
２　繰入金を除いた当年度純利益又は当年度純損失は、当年度純利益又は当年度純損失から収益的収入に計上された一般会計繰入金を除いたものである。
３　一般会計繰入金は、収益的収入と資本的収入の合計である。
４　自己資本構成比率＝（資本合計＋繰延収益）／総資本
５　30年度の職員数のうち１人は、うわまち病院専従の損益勘定職員である。
６　元年度の職員数のうち２人は、うわまち病院専従の資本勘定職員である。
７　２年度の職員数のうち７人は、うわまち病院専従の資本勘定職員である。

【当年度の概要】

(1) 経営成績

医業収益は、主に他会計負担金が皆減したことにより、前年度に比べて２億5,633万円（93.6％）減少し、1,762万円となった。

医業損失は、医業費用が新型コロナウイルス感染症関係補助金の指定管理者への支出の皆増などにより増加したため、前年度に比べて20億6,771万円（787.7％）増加し、23億3,023万円となった。

経常利益は、医業外収益が新型コロナウイルス感染症関係補助金の皆増、指定管理者負担金の増などにより増加したものの、医業外費用が増加し、医業損失が増加したため、前年度に比べて894万円（25.4％）減少し、2,627万円となった。

当年度純利益は、平成18年度から続いており、前年度に比べて894万円（25.4％）減少し、経常利益と同額の2,627万円となった。

(2) 財政状態

資産合計は、建物や器具及び備品などの減価償却等に伴い固定資産が減少したものの、未収金の増などにより流動資産が増加したことにより、前年度に比べて14億3,626万円（15.4％）増加し、107億6,857万円となった。

資本合計は、繰入資本金が一般会計からの出資金により増加したことなどにより、前年度に比べて１億3,127万円（2.2％）増加し、60億9,286万円となった。

１年超滞納未収金は、前年度に比べて33万円（28.9％）減少し、82万円となった。

企業債年度末残高は、企業債の新たな借入れがなく償還のみであったため、前年度に比べて２億106万円（7.3％）減少し、25億5,479万円となった。

(3) キャッシュ･フローの状況

当年度のキャッシュ･フローは、業務活動により２億6,060万円増加し、有形固定資産の取得による支出等の投資活動により３億6,440万円減少し、建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出等の財務活動により9,606万円減少した。その結果、当年度の資金期末残高は、前年度に比べて１億9,986万円（7.0％）減少し、26億5,050万円となった。

(4) その他

建設改良費は、ＤＲ対応ポータブル撮影装置等の医療機器購入や横須賀市新市立病院新築工事基本設計業務委託等の新市立病院建設事業などに充てられ、前年度に比べて１億4,809万円（42.1％）増加し、４億9,991万円となった。

一般会計繰入金は、収益的収入に係る繰入金の皆減により、資本的収入に係る繰入金だけとなったため、前年度に比べて３億8,100万円（78.4％）減少し、１億500万円となった。

職員数は、前年度に比べて５人増加し、10人となった。